

第3回（仮称）ねりま区民大学のあり方懇談会会議録

日時 平成23年9月26日（月） 18:30～20:30
場所 練馬区役所 本庁舎5階 庁議室
出席者 委員 14名
（事務局） 生涯学習部長、産業地域振興部長、生涯学習課長、生涯学習担当係長、
同係職員1名、同課庶務係職員1名
傍聴者 3名

配布資料

- （1）地域に求められる人材の育成・活用の方向性に関する資料 ……資料1
- （2）これまでの懇談会で出された課題別意見一覧 ……資料2
- （3）練馬区区民意識意向調査単純集計表（抜粋） ……資料3
- （4）区政の課題・重点事業 ……資料4
- （5）区および他区の地域活動支援、人材情報提供事例 ……資料5
- （6）通信教育のあり方に関する資料 ……資料6
- （7）Eラーニングのあり方に関する資料 ……資料7

参考資料

- （1）地域人材育成・活用事業の実施状況および現状と課題 ……参考資料（1）
（第1回懇談会 資料5）
- （2）生涯学習支援プログラム事例 ……参考資料（2）
（第2回懇談会 参考資料（6）～、追加資料（7））
- （3）練馬がいちばん ……参考資料（3）
- （4）すぎなみ地域大学23年度前期講座募集案内 ……参考資料（4）
- （5）児童・生徒を対象とした将来設計学習施設（品川区教育委員会）……参考資料（5）

【座長】

区民の方の、拠点になれるような、とまり木になれるような、自分の夢を描けるような議論にさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

資料の確認と、次第1について資料1、2、3の説明をまとめて事務局からお願いします。

【事務局】

今日は傍聴の方が3名いらっしゃいますのでお願いいたします。

（資料の確認）

1．地域に求められる人材の育成・活用の方向性について

【事務局】

（資料1、資料2、資料3に沿って説明）

【座長】

地域に求められる人材の育成・活用の方向性について、資料1は12月までにまとめる課題がもたらされ、資料2は各委員の意見をまとめ、それをもとに今後の検討をさらに深めていき、資料3は今後の方向性を出した上で具体的に検討されるであろう資料提供になるかと思います。ご質問はありますでしょうか。

(なし)

【座長】

方向性ですから、これを理解していただいた上で、区民大学に期待する具体的な機能、カリキュラム、人材育成・活用事業について、各委員から意見を聞きたいと思います。

では、地域福祉、学校教育支援など、区民大学が取り上げるべき事業を、区民大学の方向性ととも検討しようと思います。

事務局から説明をお願いします。

2. 区民大学に期待する具体的な機能・カリキュラム (人材育成・活用事業)

(1) 既存の人材育成・活用事業のうち、体系的な学習が必要な事業について

【事務局】

(資料4、参考資料4に沿って説明)

【座長】

既存の人材育成・活用事業のうち体系的な学習が必要な事業ということで、いくつか提示されていますが、いかがですか。

【委員】

区民大学に対する区民の方のご意見をまとめたものを見ると、防災があがっています。地域の皆さんとのコミュニケーションの場所が欲しいということです。町会、自治会、ボランティア団体、多様な活動主体は、なかなか一体にはなっていないですね。

これらを一体にしていくには、地域にいる様々な技術・経験を持った方々を一つにして町会につなげるとか、町会とNPOボランティアとが一緒になってやっていくとかしないと、今のままの町会、自治会だけだと悩むところです。

地域で色々活動している方々がどうやって手を組んでいくかというと、高齢者の方に「何か一緒にしませんか」と呼びかけていく。私はものづくりもやっていて、何か合っているものに自分が入っていくということはものすごく喜ばれるのです。だから、「町会に入りませんか」というよりも、そういう呼びかけから入った方がいいのかと思います。だから、区民大学の中に、人材育成とか、経験、技能を生かしたものを取り入れることはとても大事です。

練馬区には16団体からなる文化団体協議会があります。何十年もやってきた方の集まりですから、これから人材を育成することも大事ですが、今まで培ってきた方々を大いに利用して、地域におろしていくような形を区民大学でつくれるといいなと思います。私は自分がやってき

た文化面で、呼びかけやすいところから入っていくことが大事だと思います。

【座長】

委員は一貫して、今までの経験者を活用しよう、講師で活用しよう、ということをおっしゃっています。新しく育てることも大事だけれども、今までやっていらっしゃる方がどのように適切に、それぞれの場を見つけられるかということも必要であるということです。

文化というのはまちづくりのとても大きなところですし、祭りとかの文化・行事というのは地域を強めるものだと思いますので、そういう視点から文化活動をとらえることも必要になると思います。

他にいかがでしょうか。

(なし)

【座長】

産業地域振興部長に伺いますが、産業と絡むことはありますでしょうか。地場産業というか、練馬で培った伝統の産業とか、そういうものが区民大学とマッチすれば大きいと思っています。

【産業地域振興部長】

産業地域振興部長の宮下と申します。よろしくお願いいたします。

今、練馬の産業との関係という話がありましたけれども、町会ですとかNPOの活動の支援とかを私のところで所管をさせていただいて、そのような関係でこの場に参加をさせていただいています。

それで今、座長からお話があった産業との関係で申しますと、練馬区において、住宅都市ということで産業がうまく生まれてこないということで、これから練馬の経済が活性化していくためには、どちらかというところと創業してもらわなくてはいけないというところもあるかなと思っています。そういうこと言うと、今、委員からお話があった、既に技術を持っている人が改めて創業するのか、あるいはこういった区民大学の中で学んだことをきっかけにして、新たに、もう少し詳しく学んだ上で創業している。そんなこともきっかけになればありがたいと感じているところでございます。

【座長】

その視点でいくと、シャッター街をどう開けるかというか、シャッター街にパワーアップカレッジの卒業生達が寄合所みたいなコミュニティをつくらうとしています。

そこが閉まっていると、まちづくりにはならないわけで、それぞれの商店が活性化できるような仕組みも一方で持っていないと、地域は壊れてしまうと思いますので、そういう視点でも検討していただくことが大事だと思います。

他にいかがでしょうか。

【委員】

地場産業として、アニメと農業は知っていました。その他に漬物、江戸の染物・表具等があると事務局から聞きました。

そうすると、ねりま区民大学というからには、練馬の特色をどうしても出したいと思うのです。強い地場産業があれば、地場産業に関係している人が講師となる講座を扱いたい。

ただ、農業をやっている方、伝統文化をやっている方はプライドが高いと思います。そういう方をどうやって取り入れるかということは、また別の議論になると思います。

例えば、農業の講座だけで終わらず、次に自分でつくった農作物を漬物にし、おいしく料理して食べる。さらに染色の講座を受けて、食卓を彩るテーブルクロスをつくり、自分でつくった農作物をおいしく料理して、楽しい食事をとるというテーマを持たせる。仮にコンピューターがあれば、自分は農業から農作物をつくって、楽しい食卓にしていますとホームページ等で発信できる。単に一つの講座だけではなく、いくつかのテーマを持って複数の講座を組み合わせ実施できればいいと思います。地場産業の強みを生かした、練馬区ならではのということを講座に取り入れたらいいと思います。

【座長】

地産地消という考え方がありますよね。それも重視されると思います。
他にいかがでしょうか。

【委員】

私も、練馬は農業というのは知っていて、近くで家庭菜園をやっている人がいっぱいいます。きゅうりが採れるとおすそ分けとっていただいたりします。たくさん採れたものをどう漬物にするかみたいなコンテストを実施してアイデアを募集するとか、1位になった人のレシピをブログで紹介するとか、家庭菜園のノウハウだけではなく、収穫物をどう料理するかとかも、コンテストにするとみんな盛り上がるのではないかと思います。

先日も、餃子祭りをやると聞いて、色々なお野菜を入れた色々な餃子ができるだろうなと思って、そういうアイデアを募集するようなことをやると、区民としては参加しやすい、興味がある、レシピも知りたい、となると思います。

【座長】

ありがとうございました。
他にいかがでしょうか。

【委員】

本当にそれは大事なことです。キャベツの研究をして、キャベツをロールキャベツにするとか、実際にやっているのに知られていない。一般にアイデアをもらうというのがまだないでしょう。商工会には研究会があるので、それを区民に広げていく。

私達も、伝統的文化、現代のものなど、色々な作家がいて、それを子供に教えたり、大人に教えたり、夏休み親子教室をやっていたりするのですが、なかなかみんなに行き渡っていないところがあります。だから、区民大学でお教えして、またその人たちが地域へ戻って、先ほど

聞いたパワーアップカレッジの方々がシャッター街で教えてたりして、そうやって広がっていったらいいなと思っています。

お野菜のことも、商工会議所ですごくやっているの、それをもっと区民大学に入れていくといいかと思います。

【委員】

今、練馬区は23区でのキャベツ生産高トップです。そのキャベツを使って、産業と地産地消と地域の活性化と全部にリンクして、練馬野菜を使った特にキャベツを使った野菜餃子のプロジェクトを行っています。区内の飲食店とか、場合によってはご自身でやってみたいというNPOの方も含めて手を挙げていただいて、野菜の特にキャベツをふんだんに使った餃子を提案いただければ、それを自身の野菜餃子ということで自分のお店で扱ってもらったり、場合によってはコンテストをやって、こういう野菜餃子がこの店にありますよ、というようなイベントをやらせていただいています。

地域の活性化の素地といいですか、要素を皆さんでピックアップして、それを地域連携という一つの枠で括り、盛り上げていきたいということです。

ねりま区民大学も、色々な要素があると思います。他の委員もおっしゃっていますけれども、色々なノウハウとか、色々な経験をお持ちの方がいらっしゃるので、それを区民大学でコーディネートしたら、色々なものにつながると思います。若手を鼓舞したり、叱咤激励することにも使えますし、高齢者で我こそはという人にも使えますし、商店街で、先ほどシャッター通りを何とかしたいとお話をされていましたが、そういうことを学んで、実際に学んで我こそはと思う方がそういうシャッター通りに入ってもらってもいいと思いますし、地域のことを学びたい、産業について学びたい、商業について学びたい、自分の商売について学びたいというものを、ねりま区民大学で地域のこと、そういうノウハウ、教える人教えられる人が色々なところで集う形のシステムができれば、本当に理想的だなと思います。

【座長】

この部分につきましては、例えば、どういうカリキュラムが考えられるか、今まであるものの中でどう活用できるかということもご検討いただき、資料を出していただきたいと思います。

それから、活用事業については既存のものを活用していく必要があると思います。卒業後はどことつなぐとか、どういう形で定着するかという議論をすることになりますので、明らかにすべきことを考えていただきたい。

追加になりますが、若者の仕事場が限られてきて、特に高校とか専門学校で勉強している学生は限界があります。ですから、この事業が学校教育支援とも関係します。そういう中で、就労の支援が考えられるのかを少し検討することが必要だと思います。

【委員】

資料1-2を見ますと、区民大学で受講したい講座という項目で、「具体的な地域課題に即した講座」が44%とトップを占めています。でも一方で、区民大学に期待する機能という項

目では、「生涯学習のための専門的な講座・講演会が行われている」がわずか25%というだけです。期待はしている、でも、具体的には期待していない。ここでいう地域課題とは何か、ということをもっと汲み取っていかないと区民の要望に応えられないという感じがします。

区民の方が地域課題という言葉に込めているものと、我々が地域課題と考えているものとは、ずれないように工夫することが一番必要だと思いました。

その上、自身が地域課題解決に向けてできると思う活動という項目では、「特になし」というのが一番多くて、次は清掃、になっていますよね。ここをどう変えていくかということが、今、議論をすべきことだと思います。

【委員】

座長が若者の就職支援とか、就職したり活躍できる場が以前に比べれば大分狭まっているというお話をされたのですが、まさにそのとおりだと思います。

一方で、今の団塊の世代の方は、非常に苦労して社会人としても成功され、企業戦士として活躍されて、この2、3年ぐらいでいよいよ引退するからどうしようか、と考えている方が多いのではないかと思います。

そういう企業戦士として長年活躍されて、ひょっとしたら世界中を飛び回ったり、日本中を飛び回ったり、場合によっては、ある職域みたいなエキスパートもいれば、役人としてエリート街道を全うしたような人もいると思うのです。そういう方の人生経験、職業人としての社会知識、処世術、転職とかの色々なノウハウを、参考になる部分、参考にならない部分もあると思いますが、若い人やこれから社会へ出て頑張ろう、活躍しようという人達に教え授けるような講座ができると思うし、アニメや産業だけではなく、練馬に住んでいる若い人達の社会人としての成功にも一役買うことができるのではないかと思います。

【委員】

学生はインターンシップという形ですが、そうではなく、今おっしゃったような方がフィールドワークのリーダーとなって学生や若い人を10人連れてフィールドワークをしてレポートを書かす。あるいは、業界研究という形でその業界で経験を積んで問題を十分掴んでいる人から、自分が勉強したい、就職したいと思うことを学ばせる、ということは大いにあるでしょう。

うちの大学でも年を取った経験豊かな卒業生達にそういう形のサポートをお願いしたいというつもっています。

【座長】

生涯学習部長にお尋ねしますが、学校の支援というか学校教育支援は、区民大学でどのような可能性がありますか。

例えば、区民大学で手に職をつけて地域に根差したいという子供達も今後増えてくると思いますが、そのあたりは区民大学としてどういう可能性があるのですか。

【生涯学習部長】

資料1 - 1でご紹介させていただいたのですが、一つは地域を担う人材づくりをいかにやっ

ていくかということと、もう一つの柱は、座長がおっしゃった未来を担う人材づくりで、私どもとしては、子供達の育成を学校教育の中というよりも学校教育と連携しながら、ねりま区民大学の中でも一つの柱としたいと考えています。

その中で、前回、前々回でご紹介させていただいた色々な取り組みについて、地域産業といったものも含めて、色々な分野の試みをやっているということでご紹介させていただきました。

それから、先ほど出ておりましたけれども、青少年の就職がなかなかできない方々に対する対応なども含めて、青少年、子供達に対する職業意識をはじめとしたスキルをどのように伝えていくかが非常に大切ですので、区民大学としてどういったものを柱でやっていけるのか。

地域を担う人材づくりと、これはどちらかということ大人の部門になりますが、お互いにつながっているような形が必要かと思っておりますので、そのあたりを意識していただいてご議論いただければと思います。

【委員】

資料1 - 1で、組織づくりは明快によくできていると思いますが、この絵を見て、どこのパイプが詰まっているか、障害があるかといったときに、人材ということになる。

時代が変化しているときに、人の意識がついていかない部分がある。右肩上がりのときは、農業社会の理論といい、農業社会ではリーダーは誰でもいいのです。朝起きて、田んぼに植えて、耕して、太陽と米と水があれば育つのです。豊穡の実りがある。ですから、リーダーが誰であろうと関係ない。共同社会だと助け合うのです。そういった経済的な面では、リーダーは誰でも関係ない。

ところが、近隣の商店街・町会等において、経済が右肩上がりの時代背景で会長等になられたリーダーは背景が変わってもその地位を降りようとしなない。後進を育成せず、生涯居座っている人が多く見かけられる。これを何とかしないと、どうしようもない。

だから、区民大学は人材育成と活用という面で、これらを払拭する方法はないかと思うのです。そうでなければ、時代の変化に人の意識がついていかないと思います。定年の延長、規約の改正で商売をやめない人はたくさんいます。人材育成ではそういうことも大切だと思います。

【委員】

そういうことを教える科目は、どういうものになるのですか。

【委員】

新しい時代との連携というか、新しい時代ですから試行錯誤だと思うのです。キャッチアップ経済は終わったのですから、誰でも試行錯誤です。しかし、年寄りより、若い人の方が可能性は高い。先が見えないのですから誰がやっても試行錯誤の時代です。

【委員】

今、サステナビリティという持続可能な社会といわれている、その団体がどう持続可能なのかという視点を向ける講座をやることによって、後進の話になる。持続可能なためにはどうするのかというのを考えなければいけないと思うのです。

最初に書きましたが、気になるのは、経済の話が抜けてしまうことです。金儲けの話だから、しゃべってはいけないような雰囲気をもっているのですが、実は地域の中にどう金を回すかという話なのです。区民70万人の中にどう金を回していくかという教育を、学校教育ではやっていない。誰も教えてくれない。

そうすると、地域通貨などで地域の中のお金が逃げない仕組みをどうつくるかとかを実験的にやりながらできた人材が定着する者もいるし、出ていく者もいる。特に、先ほどおっしゃった世界でやっていたとか、アニメーションなども練馬を相手に仕事をしていないと思うのです。そういう人達が、もっともっと同じように外に出て行って、練馬出身だよといって練馬の情報をアピールすることが大事なのかと思います。この区民大学は誰向けですかというのは、もっと外にいっぱい向けていいのではないのか。たくさん外に出ていくけれども、たくさん練馬区にもいらっしゃる。そういう発想ではないと、何だかすごく小さな話になってしまう。

地産地消もいいのですが、最近私の友人が言い始めたのは互産互消です。うまいお茶をどこからか持ってきて、うまいキャベツをうちから持っていくというような格好です。調布に住んでいて、練馬へ来て話すこともできる。練馬に住んでいるアニメの方に、調布に来てしゃべってもらおう。そういうこともしながら活性化も進みながら、あと地域からお金が逃げていかない仕組みをどうするか。

70万人が、今まで1日に3,000円しか使わなかったのが地域のために1日8,000円使えば、もっと早く回る。金回しがどう早くなるかという感覚をつくらなくてはいけないことと、若い人達に地域に根差した猛烈ではないおしゃれな生き方をどうやって見せるか。猛烈に生きる生き方はいっぱい出てくると思うので、猛烈ではないようにしないと、高齢社会を支える若手が地域にいなくなってしまう。練馬という住宅地から都内へ行って11時ごろ、ぎゅうってつぶされて帰ってきてへとへとになって週末は寝ている、というような暮らしではない、練馬人らしいの生き方、それを何て呼ぶのかわからなかったのが、私は「ねりまん」と呼んだのですが、練馬人らしい生き方の新しいモデルをつくるということ、うまくりーダーとしてできれば、素敵になるのではないかと思うのです。

経済の話番頭さんの目でやったら、経済は番頭さんのまねしかできないので、どうやって旦那の目をもって、旦那衆の「今日は地域のイベントだから帰ろうよ」という、そういう感覚ができるように若い人を育てていく。それを受け入れる土壌をつくっていく。そこから出た人が、地方都市でそれをやってくれてもいいじゃないですか。地方都市で頑張っ、練馬で学んだことを実践して交流をもってくれてもいいような気がします。そういうふうに広く人材育成ができるといいと思います。

【座長】

そのあたりの講座を少し研究してもらえませんか。

本当に来てくれるかどうかなのです。私達がつくるのは、大抵失敗するのです。期待感というのは何かということを見ておかないと、若い人達ははっきりしていますから、学校の授業の一環だったら聞いていますが、こっちにいらっしゃいと言っても来ないです。それをどう付加価値をつけて、来るという方向にもっていきけるのが難しいです。

出口保証をしてここに勤められるもしくは派遣できるという議論なのか、来てくれるという

議論なら、来てもらうには来たい気持ちになってもらうという仕組みをつくらなくてはならない。

【委員】

来てもらうということであれば、この練馬区にはよき人材の方がかなりいらっしゃいます。即効的にこんな資格がつくよとか、そんなことを求めても実際は難しいと思うのです。大学を卒業したら何かになれる、法学部を出たら弁護士になれるとか、日芸の放送学科を出たらテレビ局に入れるかという、そのようなことはないです。ただ、僕らは何をやろうとしているかという、きっかけを与えたいのです。あるいは、彼らに自信をつけさせたいのです。それはオールマイティーではなくて、一つのことでもいいですから。

練馬区には本当に貴重な方がいらっしゃる。そういう方が、リレー講座でもいいし、一つのテーマをもった講座でもいい。区民大学を出て出口を保証するというような確約はものすごく難しいと思うのです。でも、それも場合によっては必要でしょう。特に青少年は迷っている。迷っている彼らは、練馬区の人材、例えば経験豊富な方、著名人らが一言言うことによって、何かきっかけが見えるかもしれない。そういうことが大事ではないかなと考えます。

ですから、もう少し絞り込んで、青少年には何をもちらせればいいのか、どういうきっかけを与えればいいのか、あるいは逆に、練馬区の伝統・文化・産業というものを生かすためにはどうすればいいのかというような方向性を定めた講座の設け方というのも必要ではないでしょうか。

人材は利用すべきだと思いますし、その人材を並べることによって、人を呼ぶことは可能だと思います。

【委員】

先ほど言った、詰まったパイプを見た場合、それをやったら、そこがするっと抜けるかという、それはわかりません。ですから、何でも実行に移して、失敗を恐れないことです。つまり、失敗から学ぶ教育の方が大きいと思います。行動を起こせば、それからまた見えてくるものがあります。

【座長】

ありがとうございます。

今までの意見を受けて、生涯学習課長はどうですか。

【生涯学習課長】

色々なご意見をいただいておりますけれども、行政需要の話と、それから地域課題の話と、それから委員各位の今までの経験、出身母体等のお話で、非常に広い範囲の中でお話をいただいているという状況だと思っています。

今、区で潜在化している人材の活用が一つ。これは講師陣ですとか、そういった課題が一つです。それから、練馬区の強みということで、幾つかの産業あるいは伝統的文化、そういったものの講座関係というようなお話が出ている部分かと思っています。

学校関係については、事例として学校応援団のスタッフへの人材供給というような需要とか、就職支援については、現在、若者スタート支援事業として、これはニート・引きこもり課題に限っての話ですけれども、それ以外にも経済課の方で進めている事業等がございますので、そういった事例を持ち出しながら、どこの分野でカリキュラムを決めていくのか、集約すれば、今の人材情報をどのように取り入れていくのか。

もう一つが、行政需要と地域課題の需要をどういう取り上げ方をしていくシステムなのかというように理解して色々な議論を聞かせていただいている状況だと思います。

【座長】

行政需要とは、どういうことですか。

【生涯学習課長】

行政需要というのは、いわゆる行政側として地域の課題としてとらえているもので、資料4の区政の課題になります。資料3の区民意識意向調査は区民から見た需要ということになると思います。

【座長】

資料4が行政需要であるということですか。

【生涯学習課長】

そうです。参考資料(4)のすぎなみ地域大学講座案内の目次には、図書館ボランティア講座から救急協力員講座があります。図書館ボランティア講座、緊急雇用事業としての学校司書講座などこういったものが、今現在、行政側として取り組んでいるものであると理解しています。

【委員】

資料1-2には区民意識意向調査の結果がでています。

1位は防犯や防災ですが、赤字を見ますと、地域のつながり・連帯、人と地域を結びつけるコーディネーター、仲間、さまざまな人が集まれる場所、仲間づくり、などで、これらは人と人を結ぶということで共通しています。ということは、そういう講座がほしいということだと思います。

行政に対して何か聞きたいときも、どこかでそういう講座や場所があったらいいなということも、就職や資格取得につながる講座、学んだ知識や経験を生かして高めるための講座、全部同じことだと思って結果を見ていました。だから、防犯や防災、高齢化社会に向かっての人と人のつながりのつくり方とか、そういうことが三つぐらいに集約されていくのではないかと思います。

おばあちゃまの子育ての経験を、どういう子どもの育て方をしているのか、親と一緒に住んでいない時代だからどうしたらいいかということも全部含めて、その経験を生かしていただくというような、人と地域を結びつける、人のつながりをどうやってつくっていくかというところに集約されていくと思います。経験豊かな方々をこの中にどう取り入れていくか。人材バン

クみたいなもの分けて集約していくと、だんだん見えてくるのかなという気がしました。

【座長】

ありがとうございます。それはご意見としてお伺いします。

【委員】

私は児童福祉の分野なので、その方面の話が少なくてちょっとと思ったのですが、区民意識の中で、子育ての支援というのが非常に高いニーズとしてあります。20代・30代の男性・女性を含めてそういった要望が高いというのもあるのですが、これは預かるところを増やしてほしいとかそういった気持ちが多いのかなと思います。しかしこれはカリキュラムをつくっていくターゲットをどう見ていくかということです。子育て支援の色々なカリキュラムは、育て方とかそういったことももちろん考えていく必要があるのですが、実は子供を持ったときにその親子が地域のデビューをするということで、仕事をしているので地域のことに関わらなかったけれど子供ができるということで、地域との接点が出てくるということが多くあります。

震災以降もそうなのですが、例えば地域の防災、防犯ということも、会社に行っているとき子供は地域にいる。子供を助けるにはどうするのだろう、子供が安全に暮らすにはどうするのだろう考えると、自然に地域のことも考えざるを得ないというか、子供を通して、子育てしている親たちが地域へデビューする非常にいいチャンスというか機会だと思うのです。ですから、その地域の防犯、防災とかの非常に要望の高いものと合わせて、ターゲットを子育て中の親、パパたち地域に戻ろうではないですけども、そういったことも含めてカリキュラムの中に組み込んでいけるのではないかと考えました。

【座長】

ありがとうございます。

それぞれの所管でやっているものもありますし、大学を利用できることもあります。カリキュラムの可能性を出していただいて、その中で区民大学の特徴を出していきたいと思います。

(2) 地域課題の解決のために必要な学習課題について

【事務局】

(参考資料3に沿って説明)

【座長】

この地域課題は、地域の見守りとか、地域をどう耕すか、地域の福祉課題をどうするか、高齢者の支援、防災・防犯もそうです。

どのような人材育成活用事業を区民大学で行うかという議論ですから、人材を発掘することも必要でしょう。

【委員】

地域課題については、サラリーマンが定年になり地域で何かやろうとなったときに、地元と

のつきあいがないので全くわからないのです。そういった方が地域福祉の課題を知って、戦力になるということがパワーアップカレッジの一つの目的であると思います。

朝出て、夜帰るという生活をしている人が多いし、引越しをして練馬に来た人も練馬のことが全くわからないので、私の希望としては、練馬区の各部長・課長さんにそれぞれのテーマについて話していただきたい。というのは、区のホームページとか資料などはいっぱいあるのですが、読みきれないのです。有名な方の講座もいいですが、区の職員の方から、病院問題、高齢者、子育てなどの話をしていただくことによって、練馬区のことを知らない人が理解できるとともに、区のそれぞれのセクションが区民大学をバックアップする体制ができると思うのです。パワーアップカレッジについて言うと何となくその部分が弱いのです。行政が区民大学を盛り上げると、どんどん盛り上がっていくと思います。難しいテーマではなく身近なテーマを行政の方に説明していただく講座があるといいと思います。

【座長】

行政とのコンタクト、パイプは必要ですね。
他にいかがでしょうか。

【委員】

参考資料(3)を見ると、練馬にはアニメ制作関連会社が90社以上があり、東京の地場産業＝練馬を指していると言っていていいくらいの数で、他区に比べて非常に活発です。

だから、区民大学で、アニメーションに対して感動・関心・理解を持つ、具体的なカリキュラムをどう組んでいくか。もう少し高度になったら、簡単なアニメーションをつくるとか。

もう少し高度ということであれば、受講者が先々アニメーションの仕事をやりたいと思ったときの具体的な入口は、アニメーションの一番中心の絵を描く人ですし、そのアニメーターも、先生方、OBの人、今現在それぞれの協議会に参加している会社の人とかたくさんいて、少しでも皆さんに理解してもらいたいという気持ちと自信を持ちながら仕事をしています。

【座長】

委員、それらの企画案はありませんか。

【委員】

具体的に考えてみたいと思います。ぜひ授業のカリキュラムの中に入れていただきたいという要請です。

【委員】

皆さんに教えていただきたいのですが。

私も商工会議所のメンバーでして商工会議所はアニメに力を入れています。日本のアニメは優秀だから、フランスなどの外国と交流してビジネス産業として外貨を獲得できるというのは理解できません。それを、練馬の地場産業と言われても、練馬にどうやって人が来て、どうやって金が落ちるのかということがわからないです。そのところがつながれば、私も「よし、

やろう」となるのです。教えていただけるとありがたい。

【委員】

アニメが活発になると練馬にお金が云々というのは、納税とか。

【委員】

本社機能がほしいでしょうね。

【委員】

東京都内の他区にあるアニメ会社に、練馬区にぜひ来てくださいと、区が呼びかけをしているはず。だから、人が集まって、そこに住んでいる人が就業できるということが非常にお金とは密接な関係になると思います。

【委員】

会社をもってくる補助制度は区でご用意いただきますので、そういうものを有効に使える会社も増える、就業も増える、それから取引等々の売り上げ等々も増える。そういういい流れにつながるかと思います。

あとは、練馬区としてアニメで盛り上がれば、恐らく有形無形の数字で測れる以上の色々な効果も生まれるかと思います。

【座長】

では、委員にはアニメの講座と議論、委員には子供もしくは青年に何を教え、どうそれを循環していくのかというような提案、委員には児童の他と重複しない具体的なプログラムを先ほどの意見のように出していきたい。委員には世界を見るのであれば、世界を見るプログラムはどのように具体的になるのか学校等も含め出していきたい。委員には学生達をどうするのかということを具体的に出していただく。その中で落としどころを決めていきたいと思います。既にプログラムはあるので、それを乗り越える説得力があれば具体的にできると思います。

【委員】

座長がおっしゃった既にあるプログラムというのは。

【事務局】

既にあるプログラムについては、第1回懇談会の資料5になります。

【委員】

了解しました。

【座長】

学校との関係はこちらがやろうとしても、学校が断る場合が多いので難しいです。だから、そのあたりは生涯学習部長・課長に調整していただく必要があるかと思います。

【委員】

学校との関係ですが、生きる力を養うことです。つまり学校は学問を教える場所という考えがあるけれども、学問がどれだけあっても、社会に出たら自殺が毎年3万人ずつ、13年間続いているのです。そうすると、社会の持つ一つの病としか思えないのです。それがどこにあるかという、家庭教育、学校教育、社会の教育であると、つまり、生きる力をみんなかさばっているのではないかと、私はそう思ってくるのです。産業界あるいはこういう民間の大学みたいなものが、学校にサジェスチョンすることはできないかと思っているのです。

3. 区民大学に期待する具体的な機能 [情報収集と提供(地域活動支援、人材情報バンク)]

【座長】

地域に活動する団体・人材の情報等を収集して整理し、区民の学習や地域活動へ役立つ情報を提供する仕組みについて検討したいと思います。

ハードとして必要なのは何か、場所、情報システム、既存の地域活動センターなどの連携のあり方ということが議論になります。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料5に沿って説明)

【座長】

ありがとうございます。

提案ですが、この第3回でだいぶ意見が出ましたので、集約をするという形にしたいと思います。先ほどお願いした各委員は、FAXかメールで事前に事務局に送付いただいて、それをもとに次回の議論を進めていきたいと思います。

【委員】

私も人材バンク、文化面の組織のあり方などをもう少し掘り下げて、どんな方法があるかということを検討してみたいと思います。

【座長】

お願いします。

他にいかがでしょうか。

【委員】

人材バンクの機能ですが、登録機能を持つことは理解していますが、それをどう使い、活用する場を見つけていくかという機能も、この人材バンクの中に入れることになりますか。

【委員】

そのようにした方がいいと思います。人材バンクをつくりましたといっても、学校とか地域の方が利用するときにはどの程度の先生がいるかということがわからない、という声があると聞いていますので。

初歩のことが教えられる先生、高度なことを教えられる先生とか、色々ありますので、登録方法、活用方法をもう少し事務局と練りたいと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

事務局といたしましては、基本的には地域活動につながる情報、優秀な練馬区の人材をうまくつながるようなシステムをつくっていきたいという思いがあります。

【委員】

活用する場を見つけてくるのは、どこの誰がやることでしょうか。

【事務局】

それについてもお考えいただきながら、まとめていきたいと思います。

【座長】

難しいのですが、マッチングを誰がするかということになるかと思います。

【委員】

ねりま区民大学がやるのですか。

【座長】

それはまだわかりません。

【委員】

地域の人は、練馬区の図書館でまず情報収集をするのではないのでしょうか。それが一番わかりやすく、二重にもならない。人材バンクというのは人材バンクで既存のものを生かしてあって、ねりま区民大学がそこに関わるかどうかという話をしておかないと。

【座長】

どこまで出せるか、その議論の結果ですね。おっしゃったように既存のリスクはあります。人材バンクはいくつもあるから、まだ決定ではないですが、既存のものと合わせて、既存のものの中で何ができるかという議論をしていただきたい。

【委員】

既存のものでいいかではなく、区民大学としてどう関わる必要があるかということを検討しないとだめだと思います。区民大学らしい方法があるのではないかと考える必要があると思

ます。うまくできるわかりませんが、一つの案として考えて、また皆様のご意見でいい方向へ向かえば、なおいいと思います。

【座長】

いかがですか。

【事務局】

資料5のすぎなみ地域コムは、杉並区でサイトを運営して情報を募り、まとめて提供するようなシステムかと思われます。他にはSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）というものがございます。例えばパワーアップカレッジ卒業生たちが色々な地域の情報を持ち寄り、その情報をインターネットでの掲示板的機能を持ったSNSで扱い、ポータルサイトに組み込んだ形で機能すれば、先ほど委員が言ったように、地域にどんな活動があるのか、そういったことも集約されてくるシステムになるのかなと思います。

難しいことを言ってしまったかもしれませんが、色々なシステムがある中で、それをどう組み合わせる練馬らしいものをつくっていくかという議論もできればと思っております。そういったことで事例を幾つか用意させていただきました。

【座長】

そのあたりは、運営方法の検討時に持ち寄っていただいて具体的な議論になると思います。

【委員】

前回の懇談会のときに、どういう講座があったら行きたいかと入口から考えたら、思いつかなかったんで、今度は出た後にどういうものが近くにあったらうれしいかと考えました。

地震とか台風があるので、遠くの親戚より近くの他人と、本当にご近所とつながってほしいというのが切実です。

家の近くに老夫婦二人でやっているカフェがあります。そこに練馬区の出前講座を頼んだり、色々な人を呼んで、ボイストレーニングや朗読などを自宅の一部を開放したカフェでやっています。とても居心地がよく、もっと広く知らせればいいのにと思うのですが、区報などは、区民センターや地区区民館とかで開催している事業しか載せられないそうです。近所でやっていることを、もっと色々な人にお知らせできたらいいなと思いますし、色々なことをやっているけれども、人が集まらない、みんな知らないということが多いのではないのかと思います。

それから、9月5日に「都市における農地の役割は何か」というフォーラムに参加し、練馬がいかに農業に強いかというのはよくわかりました。他の地域の事例として、立川ではラジオも活用して野菜の生育状況とか収穫物でおいしいものをつくるのでどうぞ、とお誘いを放送するそうです。そういうのがあると、ホームページは見ないけどラジオなら聞くという人もいるのかなと思います。よい情報があるのに知らないのがもったいないし、なるべく楽しくおもしろい感じのことがあったら、もっととっつきやすいと思います。

【委員】

私も同じ考えで、いいことがいっぱいあるのに、知らないことが多かったです。それと、横のつながりをつくるサイトというか、インターネットはもちろん、インターネットに載っていないことも多いので、それをどうやったらいいか。ラジオとかをもっと考えていかななくてはいけないと思うのですが、どういう方法がいいかまだ掴みきれていません。

あと、他地区との競合に例えばコンテストなどによって、逆から練馬を知ること一つの方法かと思います。まだ具体的に掴みきれていないので、考えていきたいと思います。

【座長】

本質的な議論をしてきました。それぞれ意見が出ましたので、今後は具体的な講座・プログラムを出していただき、その中で既存のものとの調整を図っていききたいと思います。ただ、相手があることですし、人は来たいと思わなかったら来ませんので、工夫しながらつくりたいです。

出していただいたものは、波及していただきたいし、活用していただきたいし、自分たちが使いやすいものをご検討いただきたい。そうすれば計画が単なる計画だけではなくてなると思います。練馬らしさをつくるのも可能性かと思しますので、そのあたりのご助言、ご提案をお願いします。

ご質問、ご意見はありますか。

【事務局】

終了時間になりましたが、まだ説明が終わっていない資料がございますので説明させていただきます。

(資料6、資料7に沿って説明)

次回の認証制度と合わせてご検討していただければと思います。

【座長】

よろしいでしょうか。

(なし)

【座長】

では、次回の予定をお願いします。

【事務局】

皆様の予定を調整をさせていただきますして、次回は10月25日(火)午後6時30分から庁議室で行わせていただきます。

今回のご意見は、お配りしました意見集約シートに記載の上、FAXで10月5日(水)までに頂戴したいと思います。

【座長】

回数に限られてきましたので、今まで広げて議論したことを集約していきます。集約する中

でいいアイデアも出るだろうし、二番煎じではなく練馬の特色を出して議論をしたいと思いません。

その他によろしいですか。

(なし)

【生涯学習部長】

大変お忙しい中ありがとうございました。

私どもでご用意させていただいた資料を検討の土台にしていただくことについては今回を最後として、次回以降については、座長からお話ししていただきましたけれども、拡散したものを積み上げていく、再構築していく形になろうかと思えます。

その中で、練馬の特色というお話もいただきました。大学の形態をどうするかというのもあるのですが、例えば大学ということで一般教養、それから専門課程みたいな話が仮にあるとすれば、ねりま区民大学の一般教養というのは、まさに練馬はどんなところかということを中心に学んでいただくことを一般教養にして、そこにまた専門課程が上についてくるみたいなことも一つ考えかなと、聞きながらそんなことも思いました。

大学のありようということも含めて、次回以降もぜひ皆さんのご意見を頂戴できればと思っていますので、次回もどうぞよろしく願いいたします。

【座長】

できるだけ皆様のご意見を入れたといえますか、まとめたつもりです。さらにそれを具体的にさせていただく。その中で可能かどうかの議論をしていきたいと思えますので、ご協力をよろしく願いいたします。

(終了)